

社会科部門

総評

今年は、小学校の高学年と中学生からの力作が数多く集まりました。

特色としては、主題の選び方にすぐれた作品が多かったことがあげられます。また、人権・福祉問題、地域とのかかわり、国際性と社会的な広がりが感じられました。

共同研究が多いことも、今年の傾向です。クラスの友達や家族と力を合わせ、相談しながら

研究を進めていました。

惜しくも入賞を逃がした作品の中にも、学年に応じた調査方法や、まとめ方の工夫しだいでは、さらによい研究へ発展できる作品も、多くみうけられました。

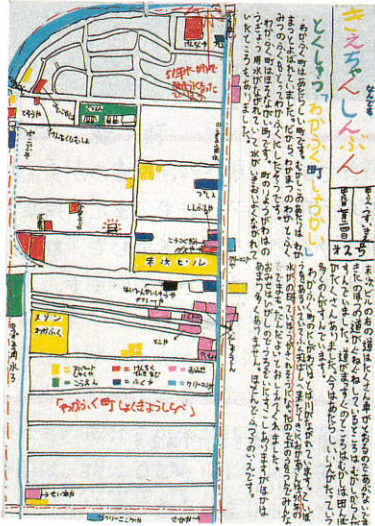
今後、自分の体を使い、地域や身近な人達とのかかわりを大切に、主題を見つけ、具体的な研究を進めてください。

最優秀賞受賞作品

きえちゃん なんでも しんぶん

岐阜県岐阜市立長良西小学校

三年 臼井 貴恵



選評

身近な問題をよく観察し、豊かな想像力と明るさで、自分自身を表現できています。新聞の一枚一枚に、いろいろなまとめ方の工夫があり、楽しい作品です。

ONE POINT アドバイス



▲「かんこふさんの一日」
愛知教育大学附属岡崎小学校
三年 牧野 暁世

看護婦さんの仕事を、実際に病院へ行き、時間を追って細かくまとめてあります。

残念なのは、動機に自分とのかかわりが少ないこと、学校で学習した内容の確認から発展させていない点です。たとえば、病院の仕組みと看護婦さんの仕事という様に、観察の対象を増やしてみてもいいでしょうか。

「おじいさんが、なくなったので昔のことがわからなくなったから」という研究の動機は、すばらしいものです。自分が、過去からの流れの上に生活しているという実感は、大切にしてください。

今後は、年表の記入を誕生と死亡以外にも増やし、もっと掘り上げてみましょう。両親や近所のお年寄りから話を聞いて、町の歴史を調べる等、年表のまとめ方も工夫してみましょう。

宮城県川渡小学校
三年 加賀 道

